

「空腹の」を意味する形容詞の成句化

田 中 実

Synopsis: The aim of this paper is to present the phrasal expressions *be hungry/starving/starved/ravenous to do*, paralleling *be eager/keen/wild to do*, which all mean “. . . shitagatteiru” in Japanese. In the case of *be eager/keen/wild to do*, they have been established using the process [be eager/keen/wild] → [have a great desire]. On the other hand, in the case of *be hungry/starving/starved/ravenous to do*, we assert that they have been made using the process [be hungry/starving/starved/ravenous] → [want something strongly]. And in that case, there must be any vocabularies in contexts which semantically make us associate “hungry/starving/starved/ravenous”

Key words: attributive use, *hungry*, predicative use, phraseology, *ravenous*, *starved*, *starving*

1. はじめに

eager や *keen*, *wild* といった形容詞は、それらが本来持つ意味（「熱望して」）から、*be eager/keen/wild to do* の形式で、「しきりに . . . したがっている」の意味を表すことができる。

では、「空腹の」の意味の形容詞である *hungry* はどうであろうか。*hungry* にも「空腹の」の意味以外に、「渴望して」の意味があることから、英和辞典（*Youth*, *Wisdom*³, *Genius*⁵）にはそれぞれ、（1 a～c）のような記述が見られる。

（1）a. *be hungry for* は（（文））で「（…を）切望する」[*Youth*]

b. *be hungry for* は（（文））, （（まれ））に *be hungry after*, *be hungry to do* [*Wisdom*³]

c. *be hungry for*, *be hungry to do* [*Genius*⁵]

（1 c）は *Genius*⁵ の記述だが、なんの断りもなしに、次の（2 a, b）のような例を掲げている。

(2) a. The child is hungry for a playmate. (その子は遊び友達を欲しがっている)

b. He is hungry to know about her. (彼は彼女のことを知りたがっている)

つまり、(2b) では、be hungry to do が be eager/keen/wild to do と同様、「切望」表現として用いられていることになる。

(2b) と同様、次の (3) も BNC からの be hungry to do の例である。(下線は筆者による。以下、同様。)

(3) Karim, this is a talented and expensive group of highly trained actors. They are ready to work, hungry to act, full of love for their humble craft, keen, eager and centred.

(3) では、句 (phrase) としての be ready to と相まって、be hungry to が用いられ、当該箇所は「彼らは仕事の準備ができていて、演技したくてたまらなく、自分たちの芸に熱中し、つつまじやかな愛着を抱いている」といった意味を表している。

こうした「空腹の」の意味の形容詞は、多かれ少なかれ、「空腹である」が故に、なにかを「渴望する」ようになることを表すと言える。もし、そうならば、hungry と同様、「空腹の」を意味する形容詞はすべて、be + Adj + to do の形式で、「...したがっている」の意味を表せるのであろうか。

そこで、本論では、Lea *et al.* (2008:370)、田中 (2011:363-364) が「空腹の」を意味する形容詞のシノニム (synonym) として掲げている、hungry, starving, ravenous と、そこには掲げられていないが、starving と同様、分詞形の形容詞である starved と famished を取り上げて、上記の問題について考察してみたい。

2. starving, starved

Lea *et al.* (2008:370) および田中 (2011:363-364) によれば、starving は本来、「飢餓に苦しむ、餓死しそうな」の意味だが、インフォーマル

な話し言葉では、単に「とてもお腹の減った」の意味になる。(4 a, b) はそれぞれ、その限定用法 (attributive use) と叙述用法 (predicative use) の例である。

- (4) a. These pictures of starving children are very upsetting. (飢餓に苦しむ子供たちのこれらの写真にはとても胸が痛くなる)

- b. When' dinner? I'm starving. (夕飯はいつ? 腹ぺこだよ)

この starving についても、be hungry to do と同様、be starving to do の形式が見られる。COCA で starving to の形で検索すると 153 例が見られ、そのうち 149 例が starving to death (餓死して) で、残り 4 例が be starving to do (. . . を渴望する) であった。(ちなみに、BNC には be starving to do の用例は 1 例しかない。)

では、英和辞典ではどうであろうか。*Youth* は、starving を starveling の形で載せているが、それはさておき、be starving/starveling to do の用法への言及はない。そして、((文語)) として「1 飢えてやせこけた; 餓死 [飢餓] (状態) の 2 切望 [渴望] している」とのみ掲げられている。*Wisdom*³ には限定用法の「餓死しそうな、飢えている」の意味しか載せられていない。また、*Genius*⁵ には「①飢えた、餓死しかけている ② ((略式)) 非常に空腹な ③ [叙述] ((スコット)) 非常に寒い」との記述が見られるだけである。

そこで、次に、COCA からの be starving to do の用例をいくつか見ておくことにしよう。

- (5) a. Dunton said she finds it hard to read about recent U.S. overtures to North Korea, including the \$2 million in food aid earlier this year. "North Korea wants humanitarian assistance, yet they won't give it themselves. Our families are starving to know what happened to their loved ones," she said.

- b. I want all the dogs and cats that are on the street and starving to have a good home for the holidays or just a bowl of

food.

- c. Happy beyond comprehension, she drank in the sight of the complex, handsome instrument that had become her life. A long beat passed. She knew she must start to play, but—she was starving to see more.

(5 a~c) の **be starving to do** は、多かれ少なかれ、「... することに渴望している」という意味にとっていいと思われる。すなわち、(5 a) では「今年前半の 2 百万ドルの食糧援助を含む米国と北朝鮮との最近の予備会談の中身を読むことは難しいと彼女は思っている、とダントンが語った」という先行文脈があり、続いて「私たち同胞は愛する者たちになにが起ったのか知りたがっている」という後行文脈になっている。そして、ここでは、**North Korea, food aid** といった **starving** (飢えている) に関係する語彙が出現している。

(5 b) でも、「通りにいる、休日用のすてきな棲み家とボウル 1 杯だけの餌を しきりに求めている 犬や猫すべてが私が望むところだ」といった意味で、**starving** と関係する **a bowl of food** という語句が出現している。さらに、(5 c) では、前半の「わけがわからなほど幸せな気分で、彼女は自分の命となった、いくつかのパーツからなるかっこいい楽器に見惚れていた」という個所で、**drank** という語が出現している。そして、「彼女はもっと 見たい と思っていた」と後半に続く。つまり、ここでも、**starving** と **drink** との意味的繋がりが見てとれる。

以上のことから、(5 a~c) において、「... を渴望している」の意味で **be starving to** が用いられるのは、その句の前後の文脈に **starving** と意味的連想を引き起す、なんらかの語彙が出現するからだと思われる。この点は、例えば、Bolinger (1967), Ferris (1993) などには言及されていない、(6) のような形でまとめられるケースであると想定される。

- (6) 「空腹の」を意味する **Adj** が、**be + Adj + to do** の形式で用いられて「... したがつている」の意味になるのは、その前後の文脈にその **Adj** と意味的連想を生じさせる語彙が存在するときである。

(6) のケースは, (3) の *be hungry to do* の場合にも当てはまり, (3) では *be ready to do* という句と相まって, *keen*, *eager* といった語の存在が指摘される。

さて, 次に, *starved* の場合を見てみよう。*starved* にも (6) が適用される。まず, 英和辞典での *starved* に関する記述を見ておこう。*starved* は, *Youth* では項目としては出されていない。次に, *Wisdom*⁹ では, *starve* の他動詞用法として *be starved for* [((主に英)) *of*] が載せられている (が, 後段で見るように, この *be starved for* の例は COCA では検索することはできない)。*Genius*⁹ では, *starved* は「① ((主に米略式)) 非常に空腹な, 腹ぺこな ② [...] が] 不足している, [...] に] 渴望している [for, of]// Many children are starved for [of] affection. 愛情に飢えている子供は多い」としか載せられていない。

そこで, COCA で *starved to* を検索すると, 134 例あり, そのうち, *starved to death* が 131 例, *starved to perfection* が 1 例, *starved to the soul* が 1 例, そして, *be starved to do* の形式が 1 例だけ見られる。(7) が, その *be starved to do* の例である。

- (7) “That’s because we’re bringing baseball back to a region that’s rich in tradition and starved to have it back. “. . . “My entrepreneurial feelings tell me there’s a hunger in America for family activities that are relatively inexpensive and that are good forms of enjoyment,” he says.

(7) の前半は, 「そういうわけで私たちは伝統豊かで, 野球を取り戻してほしいと切望する地区に戻そうとしているところです」といった意味だが, 後半では「私の興行主的なフィーリングが相対的に値のはらない, いい形での楽しみである家族の活動を求める気持ちがアメリカにはあると教えてくれているのです」と続き, *hunger* (飢え, 空腹) と *be starved to do* とが意味的連想を生じさせている。

3. ravenous

Lea *et al.* (2008:370) および田中 (2011:363-364) は **ravenous** には, ① (人が) とても腹の減った, ② (動物が) 腹を空かせてどう猛な, ③ (空腹・飢えが) とてつもない, の3つの意味があるとして, (8 a~c) のような例を挙げている。

(8) a. What's for lunch? I'm absolutely ravenous. (昼食はなに? ほんと腹ぺこだよ)

b. Go back in your imagination to the days when huge, ravenous beasts ruled the planet. (巨大でどう猛な獣が地球を支配した時代にさかのぼって想像してみなさい)

c. He has a ravenous appetite. (彼の食欲はとてつもない)

そして, 注として, (9) が掲げられている。

(9) 人について言う場合, **ravenous** はたいてい, インフォーマルな話し言葉で連結動詞の後でのみ用いられる。動物 [人の空腹状況] について言う場合は, フォーマルな書き言葉で名詞の前で用いられる。

つまり, インフォーマルな話し言葉で人について言う場合は叙述用法, フォーマルな書き言葉で動物 [人の空腹状況] について言う場合は限定用法で用いられるという, Bolinger (1967:1-34) では触れられていないケースの形容詞が **ravenous** だということになる。(ちなみに, Bolinger が限定用法と叙述用法について触れていることを要約すると, 以下のとおり (A+N は限定用法, be+A は叙述用法を表す): ①A+N は N の種類によって容認可能な場合とそうでない場合とがある, ②A+N は強調語や副詞の付加によって容認可能になる場合がある, ③A+N のなかには, A が本来, 一時的意味を表すものであっても, [be+N] + [be+A] → be + [N and A] → be + [A + N] といった「意味的調整」を経て生成されるものがある, ④be+A が先行文脈で実現していれば (すなわち, 談話において確立していれば), A +

N で用いられる場合がある, ⑤A+N の N が, event N であれば, A は be +A で用いられる場合がある。)

ここで, ravenous について英和辞典を見ておくと, 以下のような記述になっている。

- (10) a. 1 〈人・動物が〉非常に空腹の, 飢えきった 2 ((限定)) 〈食欲が〉猛烈な [Youth]
 b. 〈人・動物が〉極度に空腹な, 飢えている (starving) [Wisdom³]
 c. 1 腹ぺこの (starving); [比喩的に] (...に) 非常に飢えている [for] // be ravenous for power 権力に飢えている 2 [限定] 〈食欲が〉とてつもない, ものすごい // a ravenous appetite すごい食欲

つまり, Youth では「猛烈な」の意味では限定用法で用いられることが明示され, Genius⁵ では「非常に飢えている」の意味では叙述用法で用いられることが示されている。

では, コーパスではどうであろうか。まず, COCA で Genius⁵ のような be ravenous for を検索してみると, ravenous の用例 393 例中 18 例, 次に, BNC では 67 例中 1 例が見られる。そして, COCA には be ravenous with の用例も 1 例見られる。(11 a) は, 上記の英和辞典には記載のない be ravenous with の例であり, (11 b~d) は be ravenous for の例である。

- (11) a. McBride in his sheepskin jacket and fur hat, a swagger to him, the kind of man who controls by withholding praise until you're weak and ravenous with hunger.
 b. Harry is ravenous for taut flesh yet now age flicks him around in its large jaw, tugs at his skin, decomposes his bones. He is amazed, denying so much hunger. I never had the brazen confidence to deny life's big appetite, but I never thought I'd understand it, either.
 c. We are all ravenous for freshies, devouring a brimming bowl

and then disappearing noiselessly into the trees, . . .

- d. During the thaw they become ravenous for their usual diet of ringed seal.

(11 a) は「空腹で飢えている」, (11 b) は「生の血肉をしきりに求めている」, (11 c) は「freshies をしきりに求めている」, (11 d) は「通常の輪切りにしたアザラシの肉をしきりに求めるようになっていく」といった意味で, **be ravenous for/with** はすべて, *Genius*⁵ が掲げる「[比喩的に]」というよりはむしろ, *Lea et al.* (2008: 370) および田中 (2011: 363–364) が言うように, 実際に人がなにかに「飢えている」, あるいは, なにかを「しきりに求めている」ことを表している。

さらに, 興味深いのは, **be hungry/starving/starved to do** と同様, **be ravenous to do** (. . . したがっている) の用例が, BNC には見られる。(12) がその例である。

- (12) On an evening when he had broken the silence with one of his quietist cracks she would feel a sense of remorse and insufficiency descending on her, and hours later find herself in the larder, eating the remains of whatever was under the meat sieve and weeping that she should do something so self-defeating and stupid. On the days when he used to leave her a note in the morning she knew well enough that there was no good to be hoped for in replying to it. She understood that her excitement upset his sense of style. At the same time she was so ravenous to talk to him that it was quite impossible to stop herself.

(12) の当該箇所は, 「同時に彼女は彼にすごく話しかけたかったので自制することはまったく不可能であった」という意味で, **be ravenous to do** は「 . . . したがっている」という句を形成している。そして, ここでも, (6) のケースが当てはまる。すなわち, **be ravenous to do** に先行する文脈には, **ravenous** (空腹の) に意味的に関連する, **larder** (肉部屋, 食料品室), **eat** (食べる), **meat sieve** (食肉用のふるい) といった語彙が存在し

ているのである。

4. famished

famished に関する、英和辞典の記述を次に見てみよう。

- (13) a. ((叙述)) 腹ぺこの; (...に) 飢えた ((for ...)) [Youth]
 b. ((くだけで・やや古)) [通例 be~] すごくお腹がへった; 《...に》 飢えている ((for)) [Wisdom³]
 c. ((やや古略式)) 腹ぺこの, 飢えた (starving) 《比喩的にも用いる》 // I'm famished. 私は腹ぺこだ / We are famished for victory. 我々は勝利に飢えている [Genius⁵]

(13 a~c) に共通するのは, be famished for の形式で用いられる, とする点である。しかしながら, 実際はどうであろうか。

famished の例は, BNC では 36 例, COCA では 250 例見られるが, be famished for は BNC で 1 例あるのみで, COCA でも 10 例にすぎない。多くは be famished のような叙述用法か, my famished brain [BNC] のような限定用法の例である。ましてや, be famished to do は BNC ではゼロ, COCA でも 2 例見かけられる程度であり, それも, いわゆる too . . . to 構文におけるもの (例 (14)) や, 動詞の補語として用いられているものである。

- (14) He declined the meal the others devoured with their usual lack of decorum. Myrmeen was too exhausted and famished to do anything but join them.

このことから, 「... したがっている」の意味での be famished to do のような成句は, 現段階では存在 [確立] していないと思われる。

5. おわりに

以上, 「空腹の」を意味する形容詞として, hungry, starving, starved,

ravenous, famished をとりあげ、その本来の意味から発展して、be eager/keen/wild to do と同様、それらが be hungry/starving/starved/ravenous/famished to do の形式で、「... したがっている」の意味を表すことができるかどうかを見てきた。

その結果、be hungry/starving/starved/ravenous to do については、その例が見られるが、be famished to do については、その例はまだ見られないことがわかった。

こうした、be hungry/starving/starved/ravenous to do が「切望」表現として用いられる場合、その必要条件として、「空腹の」を意味するそれぞれの形容詞と意味的連想を生じさせるなんらかの語彙が文脈中に存在しなければならない、という点が挙げられる。

こうした条件を、いわば「担保」とした上で、「空腹である」ことは、なにかを「しきりに求める」ことに意味的に繋げられ、その結果、be hungry/starving/starved/ravenous to do は「... したがっている」という意味の成句化 (phraseology) を引き起したものと考えられる。

そして、be eager/keen/wild to do の場合は、なにかに「熱心である」が故に、そのなにかを「しきりに求めて」、その結果、「... したがっている」という意味の成句化のプロセスを踏むのに対して、be hungry/starving/starved/ravenous to do の場合は、「空腹である」が故に、なにかを「ほしがり」、その結果、「... したがっている」という意味の成句化のプロセスを踏むと言えるのである。

(コーパスの検索については芳野真実氏 (早稲田大学法学部卒業、関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科博士課程後期課程単位取得満期退学) の手を煩わせている。ここに記して感謝申上げる。)

参考文献

- Bolinger, D. 1967. "Adjectives in English: Attribution and Predication" *Lingua* 18, 1-34.
- Ferris, C. 1993. *The Meaning of Syntax* London: Longman.
- Lea, D. et al. 2008. *Oxford Learner's Thesaurus* Oxford: Oxford Univ. Press.

- 田中 実（監修）2011. 『小学館オックスフォード英語類語辞典』 東京：小学館
- Genius English–Japanese Dictionary 5th Edition* 2014. 東京：大修館書店 [*Genius*⁸]
- The Wisdom English–Japanese Dictionary 3rd Edition* 2013 東京：三省堂 [*Wisdom*⁹]
- Youth Progressive English–Japanese Dictionary* 2004 東京：小学館 [*Youth*]
- British National Corpus* [BNC]
- Corpus of Contemporary American English* [COCA]